令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【三橋小】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	ICTを道具として活用しながら、自らの学び方を考え、課題を解決しようとする力（自立した学習者）
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	・上記の力を向上させるためのアクションプランを、教員同士で話し合い、決定していく場を設け、その成果をまとめていく。（学期に2回以上） ・教員一人ひとりがアクションプランを実践する公開授業を行う。（一人年2回以上）

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	国語・算数ともに、「知識・技能」より、「思考・判断・表現」の観点での正答率が高い傾向が見られた。 算数では、無解答率が全国より高い問題が、全16問中9問あった。 質問紙調査において、「自分にはよいところがあると思いますか。」「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目で、肯定的回答が多い傾向が見られた。 質問紙調査において「ICT機器をどの程度使用しましたか」の項目で、毎日（複数時間）使用する回答が非常に高かった。また、ICT機器を使用して情報を収集したり、まとめたりすることができるかどうかを問う設問でも、肯定的回答が高い傾向が見られた。 質問紙調査において「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」の項目で、肯定的回答が高い傾向が見られた。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	児童は、自己肯定感が高く、学校生活にも満足していることが質問紙調査からうかがえる。 児童は、ICT機器に触れる機会が1日の中で何度もあり、その経験の中で、ICT機器を活用して情報収集をしたり、まとめたりするICT活用能力が身についていると考えられる。 自らの学び方を考え、工夫して学習に取り組むことができている児童が多いことが、質問紙調査からうかがえる。 一方で、算数の無解答率が高い問題が複数見受けられた。限られた時間で、自分の学力を発揮する経験が不足しているのではないかと考えられる。

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	ICTを道具として活用することができていることが、全国学力学習状況調査の質問紙調査からうかがえる。また、自分で学び方を考え、工夫することもできていると感じている児童が多いことが分かる。 この成果を、6年児童だけでなく、学校全体に広めることができるようにするために、校内研修の時間に、教職員でアクションプランを共有する時間を設けていきたい。
	A	
⇓		
学力向上策の見直し	変更なし	

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【三橋小学校】

① 今年度の課題と授業改善策

	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 算数・理科において課題が見られる。標準偏差が大きく、得意な児童と苦手な児童のばらつきが大きい。 <指導上の課題> ICTを活用した指導法の共有が必要である。	⇒	ICT等を活用した個別最適な課題に取り組む【単元内3時間程度】。 校内研究において、ICTを活用した指導法の共有を図る【月1回程度】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 無回答率が高い傾向にある。 <指導上の課題> 学校課題研究テーマ「「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実」への取り組み1年目なので、教員間の充分な理解や共有をよりいっそう図る必要がある。	⇒	授業内で、思考・表現する時間を設ける【学びの指標アンケート設問4「自分ひとりで考える場面がある」で平均3.0以上】。 学校課題研究に計画的に取り組む【月3回程度】。

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)

知識・技能	国語では、文の中における主語と述語との関係を捉える問題に課題がみられた。算数では「数と計算」の領域に特に課題がみられた。前学年までに習った漢字や言葉の使い方、除数が小数のわり算など4年生までの基礎的な計算に躓いてしまう児童も多いため、デジタルドリル等を活用して、基礎基本の定着に取り組みたい。
思考・判断・表現	国語「読むこと」において課題がみられ、解答時間が足りなかったと感じている児童が約25%いる。前年度までの読解力工場の研修を活かし、文章やグラフなどの資料を読み取る活動を継続的に行い、読解力を向上させていきたい。算数では、全国でも正答率の低い複雑な問題に課題はみられるが、無回答率は低く、最後まであきらめないで問題に取り組もうとする児童が多かった。今後も様々な問題に触れ、思考力を高めていきたい。

③

	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	C	各学級で、実態に応じたICTを活用した授業を実践しているが、その活用内容や頻度に差があり、今後より教員間での共有が必要である。	修正なし
思考・判断・表現	B	6月に実施した学びの指標アンケート設問4「自分ひとりで考える場面がある」で平均3.4以上であった。全国学力・学習状況調査の無回答率も低く、問題に粘り強く取り組もうとする姿が見られる。	修正なし

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(概ね達成)　C 6割未満(あと一歩)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)

知識・技能	算数・理科に比べ、国語・社会において課題が見られた。国語の漢字や語句の使い方、社会の方位や地図記号などの知識・技能について、タブレット等を用いて反復学習をしたり、学年をさかのぼって学習したりする機会を積極的に設けていく。
思考・判断・表現	算数や理科は、知識・技能に比べて課題が見られた。定義や解法を理解するだけでなく、説明したり活用したりする機会を授業内で多く設定し、思考・判断・表現の力の向上に努めていく。

⑤ 授業改善策の達成状況

	評価(※)	
知識・技能	B	学校課題研修において、自分で学びのスタイルを決めるなど、学習の個性化を意識した授業実践に取り組んだ。また、各学年のエバンジェリストを中心にICTを活用した指導法についても、学年内で共有し、実践した。
思考・判断・表現	A	学びの指標アンケート設問4「自分ひとりで考える場面がある」で平均3.44であった。各学級で思考・表現する時間をしっかりと確保することを意識した結果であると考えられる。

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(概ね達成)　C 6割未満(あと一歩)

⑥ 次年度への課題と授業改善策

知識・技能	ICTの活用が進み、算数や理科において知識・技能の向上が見られるが、漢字等に関しては、引き続き紙のドリル等を活用し、定着を図る必要があると考えられる。ICTと紙のベストミックスをめざし、効果的に知識・技能の向上を目指したい。
思考・判断・表現	授業内で、思考・表現する時間を確保してきたものの、さいたま市学習状況調査などでは、成果として大きく表れなかった。また、知識・技能に比べ標準偏差が大きくなる傾向が見られ、得意な児童と苦手な児童のばらつきが大きくなっていると考えられる。次年度は、探求的な学びのシンキングサイクルを研修で取り組み、自己の学びを振り返りながら思考・判断・表現する学習を繰り返すことで、学力を高めていきたい。